

# OU VISION 2021

社会変革に貢献する  
世界屈指のイノベティブな大学へ



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY

[www.osaka-u.ac.jp](http://www.osaka-u.ac.jp)

大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY

## 大阪大学憲章

2003年3月

大阪大学は、開学以来の国立大学という組織を離れて、国立大学法人として新たに出発する。かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂・適塾以来の市民精神を受け継ぎつつ、「地域に生き世界に伸びる」ことをモットーとして、それぞれの時代の社会の課題に応えてきた。歴史の大きな転換点をむかえつつあるいま、大阪大学が国立大学法人として新たな出発をするこの機に臨み、将来の豊かな発展を期して、あらためて自らの基本理念を以下のとおり宣言し、大阪大学の全構成員の指針とする。

### 1 世界水準の研究の遂行

大阪大学は、人間そのものや人間が構成する様々な社会、及びそれを取り巻く環境や自然のあらゆる分野について、また、それら相互の関係について、その真理を探求し、世界最先端の学術研究の場となることをめざす。

### 2 高度な教育の推進

大阪大学は、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを、その目標とする。

### 3 社会への貢献

大阪大学は、教育研究活動を通じて、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとして、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する。

### 4 学問の独立性と市民性

大阪大学は、教育研究の両面において、懐徳堂・適塾以来の自由で闊達な市民的性格と批判精神やその市民性を継承し、発展させる。学問の本質を踏まえ、いかなる権力にも権威にもおもんねることなく、自主独立の気概のもとに展開する。

### 5 基礎的研究の尊重

大阪大学は、すべての分野において基礎的・理論的な研究を重視し、世界水準の研究を自らの課題として、次世代においても研究のリーダーであることを標榜する。

### 6 実学の重視

大阪大学は、実学の伝統を生かし、基礎と応用のバランスに配慮して、現実社会の要請に応える教育研究を実践する。

### 7 総合性の強化

大阪大学は、総合大学としての特色を追求する。たんなる部局の集合体ではなく、人文科学・社会科学・自然科学・生命科学など、あらゆる学問分野の相互補完性を重視するとともに、新時代に適合する分野融合型の教育研究を推進する。

### 8 改革の伝統の継承

大阪大学は、つねに世界に先駆けて新たな学問分野を切り拓き、それに見合った教育研究組織を生み出してきた自己革新の伝統を継承し、絶えざる組織の点検・再編に努める。

### 9 人権の擁護

大阪大学は、その活動のあらゆる側面において、人種、民族、宗教、信条、貧富、社会的身分、性別、障がいの有無などに関するすべての差別を排し、基本的人権を擁護する。

### 10 対話の促進

大阪大学は、あらゆる意味での対話を重んじ、教職員および学生は、それぞれの立場から、また、その立場を超えて、互いに相手を尊重する。

### 11 自律性の堅持

大阪大学は、直面する課題に対し、構成員間の協調をとおして、自らの意思においてその解決を図る。



OU=Osaka University





## OUビジョン2021の改定にあたって —「研究開発エコシステム」による「OUビジョン2021」の実現—

### 進取の気風と自由闊達な精神

大阪大学は、1931年の創設以来、かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂、適塾の市民精神を受け継ぎつつ、自由闊達な市民社会とのつながりを大切に、「社会の中の大学、社会のための大学」の精神を脈々と育んできました。その精神は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、それぞれの時代の社会の課題に応じてきたという歴史に繋がっています。社会に進んで門戸を開き、その豊かな多様性の中で、人類の理想を実現せんと努力する有為な人材を輩出し、しなやかに実直に普遍的真理を見極め、世界最先端の学術研究の成果を還元し続けてきました。

### 社会の変化と新たな大学モデル「University 4.0」

国際連合が定めたSDGs(持続可能な開発目標)にあるように、世界は今、気候変動、感染症、大気汚染など、地球規模の困難な課題に直面し、深まる不安の中で、私たち一人ひとりの未来への展望は大きく揺るがされています。また、昨今の科学技術、特に人工知能(AI)や情報ネットワーク技術の急速な発展は人々の暮らしを豊かにする一方で、産業構造や社会構造の転換を引き起こし、数年先の展望すらままならないほどの大きな影響をもたらしています。こうした複雑かつ高度化する社会課題を前に、我々は解決策の探求以前に、「何を

すべきか」(What to do)、「何故それをするのか」(Why we do)という根源的な問いを突きつけられています。この現状を打破するため、大学には従来よりもはるかに強く、イノベーションの源泉としての学術研究・基礎研究の振興が求められています。

こうした状況下において大学は、従来の機能を保ちながらも、社会と向き合い、新たな課題を見つけ、「社会と知を融合すること」を目指さなければなりません。言い換えると、「産」「官」「民」と「学」の間で、「組織」と「組織」が共通の「場」を持ち、包括的に深く連携し、課題探求や基礎研究の段階から「共創(Co-creation)」することにより、イノベーションを起こすことが必要です。このような「共創イノベーション」を牽引する「社会の中の大学、社会のための大学」こそ、大阪大学の考える次世代の大学モデル「University 4.0」です。

### OUビジョン2021による礎の確立

この「University 4.0」を実現する大学となるために、大阪大学は、自らの基本理念である「大阪大学憲章」を第3期中期目標期間(2016年4月から2022年3月まで)において実装することを目指し、たゆまぬ自己変革の指針として「OU(Osaka University)ビジョン2021」を2016年に打ち出し、力強い礎の確立を進めてきました。

OUビジョン2021は、大学の知を広く世のため、人類社会の幸福のために開放すること、つまり「Openness(開放性)」を基軸としたうえで、「Open Education」、「Open Research」、「Open Innovation」、「Open Community」、「Open Governance」の五つの柱から構成され、それぞれに「共創」を実現するための取組目標を定めています。

さらに、大阪大学は、OUビジョン2021の取組みを礎として、創立100周年を迎える2031年までを射程に入れ、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」となる将来構想を示しました。この構想の卓越性、将来性が評価され、2018年10月に指定国立大学法人に指定されるに至りました。

### 研究開発エコシステムによる「共創」の実現

OUビジョン2021を実現するためには、大学と社会が「共創」し、お互いの関わりの中で潜在的な革新性をやり起こしていくことが不可欠です。そして、「共創」によるイノベーションを促進するためには、「Disruption(創造的革新)」と「Diversity(多様性)」の二つの「D」が必要であると考えています。今回の改定においては、これら二つの「D」を取組みのベースとした「研究開発エコシステム」を中心に、五つの「Open」

に関連するこれからの大阪大学の重点施策を示しました。「研究開発エコシステム」とは、卓抜した研究成果を社会実装し、その過程を通じた新たな課題を分析し、それをさらに基礎研究に還元するという好循環を実現する仕組みです。「共創」による好循環システムを具体化した研究開発エコシステムは、これまでの大学と社会の間の壁を取り払い、その関係性を一新させる「Disruption」の中核を担っています。

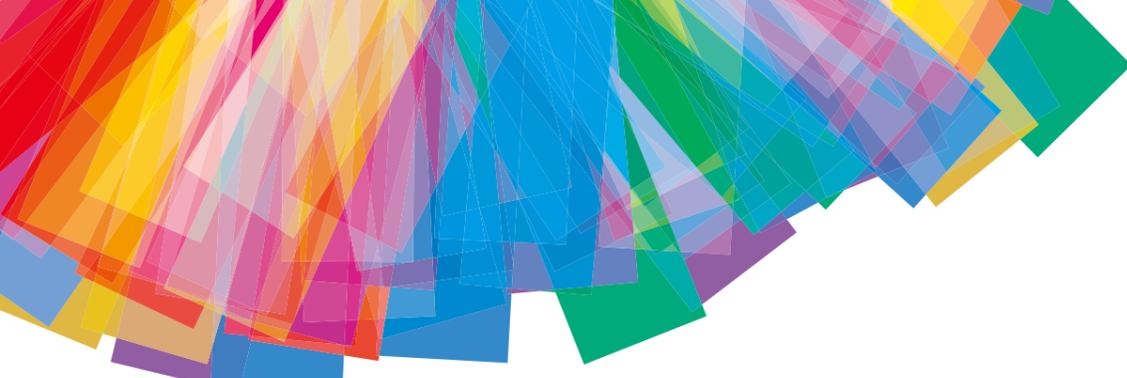
また、「Diversity」により、多様な価値観と文化的多様性を取り入れ、そのポテンシャルを最大限に発揮させることで研究開発エコシステムはさらなる発展を遂げます。この大きな流れの中で、卓越した研究成果の持続的な創出、それを円滑に社会還元していく仕組みの構築、そして、社会課題解決に貢献するイノベーティブな人材の育成を連動一体的に行ってまいります。

この研究開発エコシステムのもと、五つの「Open」それぞれの取組みを有機的に機能させ、OUビジョン2021で掲げたこれからの重点施策を確実に実行することで、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」への礎を築き、さらなる成長曲線を描いてまいります。

大阪大学総長

西尾章治郎

# 社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学



## OUビジョン実現のための基本方針

大阪大学は、OUビジョン2021の実現に向けて、「研究開発エコシステム」を展開することで、社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学を目指します。

また、これらの活動を通じて、SDGsにも貢献します。



2018.10  
柴山文部科学大臣(当時)から指定国立大学法人の指定を受ける西尾総長



2016.2

## OUビジョン2021策定

第3期中期計画

指定国立大学法人に指定

五つのOpen(共創)を推進し、知・人材・資金の好循環を実現



## OUビジョン2021の実現

第4期中期計画期間

2022-2027

第5期中期計画期間 創立100周年

2031

2028

SDGs達成期限 2030

研究開発エコシステムの展開

複雑かつ高度化する社会課題

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsが国連サミットで採択 2015.9

・市民精神の継承  
・世界最先端の学術研究への挑戦

2007 大阪外国語大学との統合

2004.4 国立大学法人化

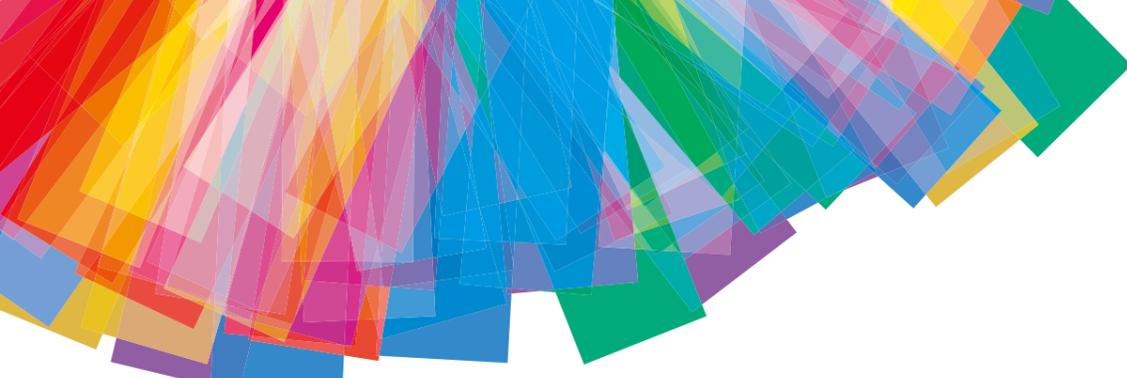
## 2003.3 大阪大学憲章制定

1931 大阪大学設立

1921 大阪外国語大学設立

1838 適塾

1724 懐徳堂



# OUビジョン実現のための 研究開発エコシステム による新たな価値の創出

## 大阪大学 研究開発エコシステム による「知」「人材」「資金」の 好循環の実現

研究開発エコシステムとは、卓抜した研究成果を社会実装し、その過程を通じて新たな課題を分析し、それをさらに基礎研究に還元して研究の好循環を築き、一層大きな革新的価値を生む仕組みです。

この仕組みの確立・発展のためには、卓抜した研究成果を持続的に生み出す源泉となる「自由な発想に基づく充実した基礎研究を行える場」の充実と、「社会課題に挑戦する力強い人材」を育成・獲得していくことが重要です。

卓抜した研究成果を円滑に社会実装するまでの流れにおいて、大阪大学はこれまで先進的な数々の取組みを行ってきましたが、知財戦略、ベンチャー創出支援、ELSIへの対応など産学共創の深化により、大学経営への持続的な資金供給につなげ、社会変革に貢献するための基盤を築きます。

さらに、大阪大学は全国に先駆けて、社会実装から基礎研究への組織的なフィードバックに取り組めます。

社会実装して初めてわかる課題・問題点などもあり、それらを社会のステークホルダーと大学とが「共創」により探索し、基礎研究に戻し、新たな知を創出する仕組みを構築します。

大阪大学は、研究開発エコシステムを確立することで、安定的かつ持続性の高い「知」「人材」「資金」の好循環を実現し、社会との「共創」を通じてイノベーションを駆動し、OUビジョン2021を実現する大学を目指します。





### Open Education

研究開発エコシステムを活用した、  
強い研究力を擁し、未来の課題に  
果敢に挑戦する力強い人材の輩出

P11~12

### Open Research

研究開発エコシステムの源泉となる  
卓越した研究成果の持続的創出

P13~14

### Open Innovation

研究開発エコシステムを活性化する  
卓越した研究成果の円滑な社会実装と  
基礎研究へのフィードバック

P15~16

## 研究開発エコシステムを中心に駆動する OUビジョン2021実現に向けた重点施策

### Open Governance

研究開発エコシステムによる  
財務基盤の強化と優秀な人材育成・獲得に向けた  
人事・給与マネジメント改革の推進

P19~20

### Open Community

研究開発エコシステムを下支えする  
世界トップレベルの基礎研究展開のための  
国際共創活動

P17~18

# Open Education

未来を切り拓く「知の探検者」を育成するために、  
大学と社会のもつ教育力を交差させ、  
産官のみならず広く市民社会と協奏し、  
公共性を備えた知を生み出す  
「Open Education」を実現します。



学問への扉(マチカネゼミ)



総長と学生との対話集会



## これからの重点施策

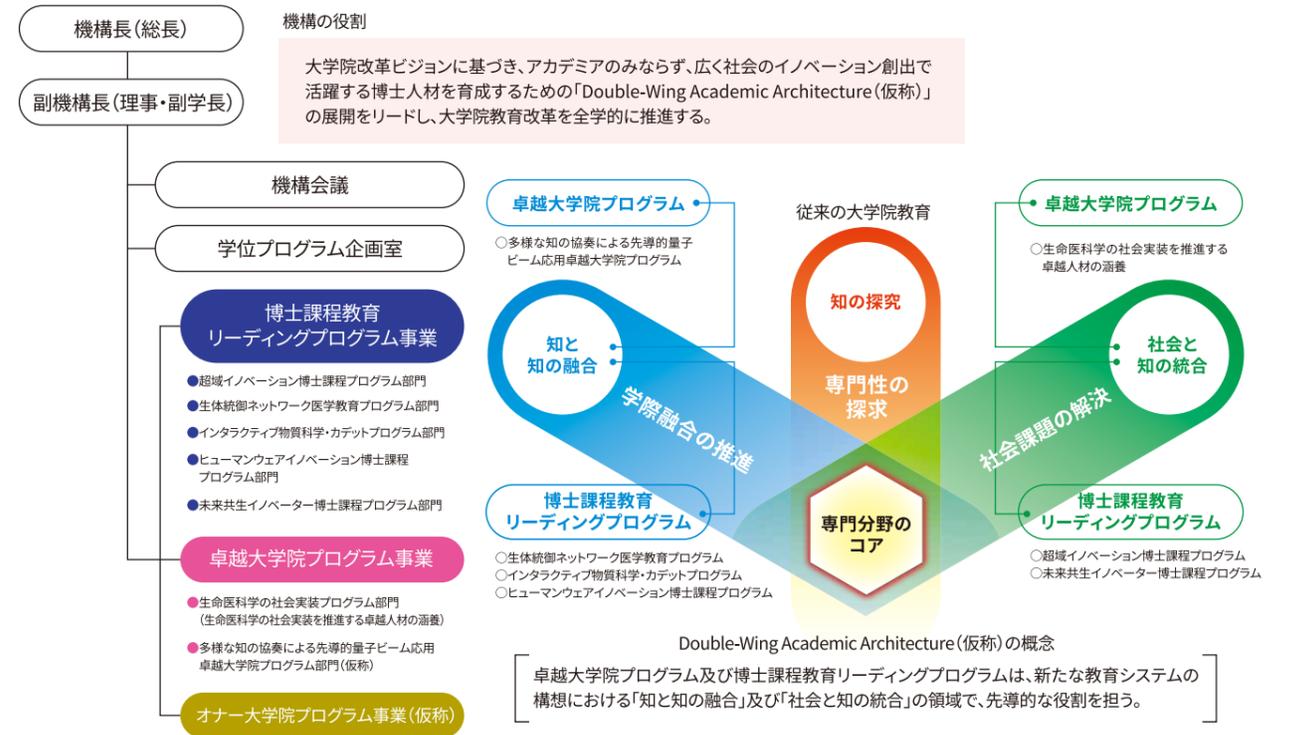
研究開発エコシステムを活用した、  
強い研究力を擁し、未来の課題に果敢に  
挑戦する力強い人材の輩出

### 博士後期課程の人材確保と教育内容の強化

- 国際共創大学院学位プログラム推進機構の整備
- Major-Minor制(Double-Wing Academic Architecture(仮称))の全学的な導入・定着化
- 学部入試から博士課程修了後のキャリアパスまでの全体最適化

#### 大学院教育改革の推進

国際共創大学院学位プログラム推進機構  
Institute for Transdisciplinary Graduate Degree Programs



### 語学力の強化

- マルチリンガル教育センターによる語学教育の刷新

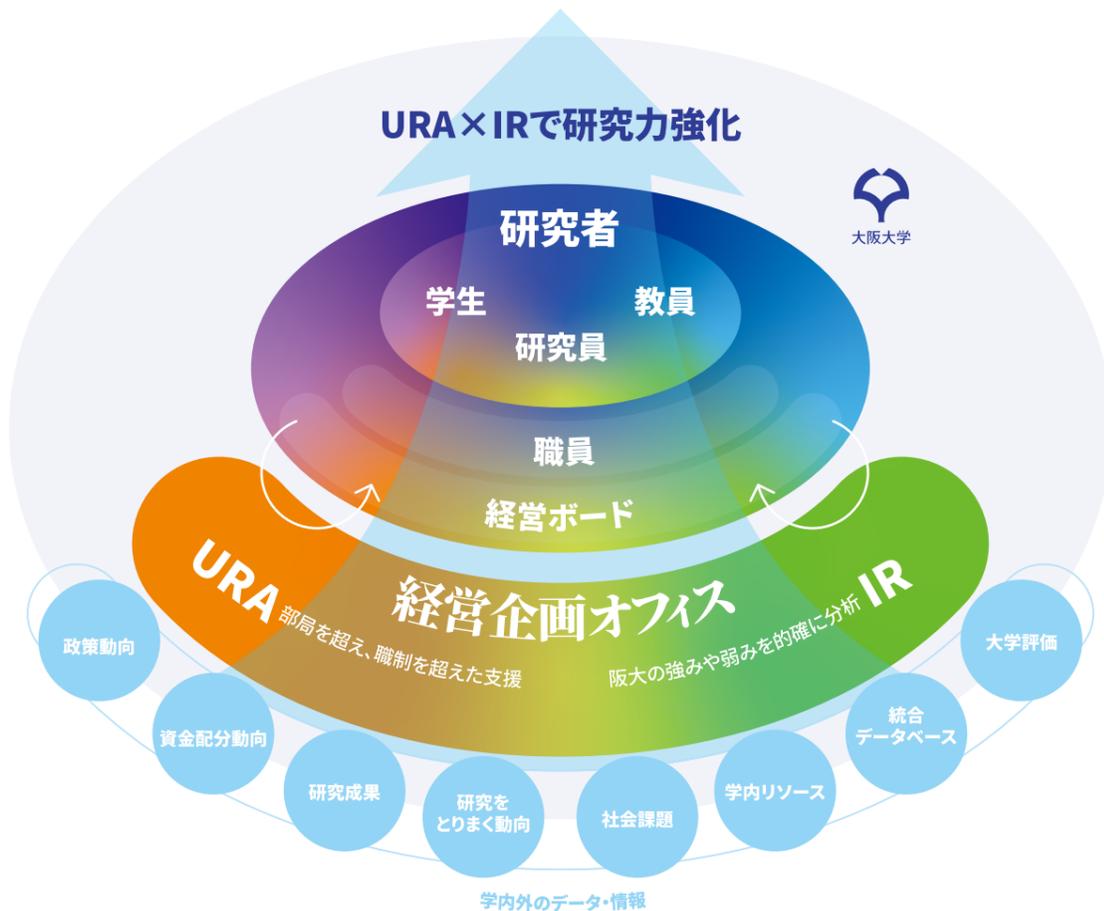


### 組織再編

- データ科学・数理・情報×"ひと・もの・こと"の教育を推進する学部構想
- Japanese Studies(グローバル日本学教育研究拠点)の形成
- アートに関する教育研究拠点を活用したSTEAM教育の推進

# Open Research

研究者のときめきと自由な発想による  
学術研究を基軸とし、専門分野を超え、  
広く世界と協働する新たな知の創出を目指す  
「Open Research」を推進します。



Open Researchを支える研究者支援体制(URA×IR)

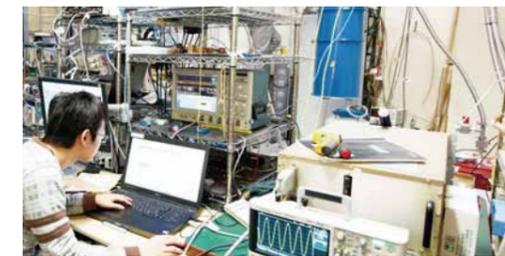
## これからの重点施策

研究開発エコシステムの源泉となる  
卓越した研究成果の持続的創出

### 卓越した研究拠点の形成

先導的学際研究機構において世界トップ拠点を  
目指す重点3領域

- 生命医科学融合フロンティア研究
- 共生知能システム研究
- 量子情報・量子生命研究



### 社会ソリューション イニシアティブ(SSI)

- 持続可能な共生社会を目指して社会課題に  
取り組むシンクタンク



国連本部におけるハイレベル政治フォーラム

### 研究者支援体制の 抜本的改革(URA×IR)

- URA、IRにより、大規模な組織間連携・  
異分野融合の拡充を推進
- 分野横断的なURAネットワークによる  
研究者支援
- 研究成果の社会実装後の社会課題、  
研究課題の情報収集・分析機能の構築

### 未来に輝く若手研究者の育成

- 高等共創研究院による国際的に卓越した  
若手研究者の採用と育成

### 社会技術共創研究センター 全国初

- 新規技術の研究開発及び社会実装に際しての  
倫理的・法的・社会的課題(ELSI)に関する  
総合的研究拠点の整備

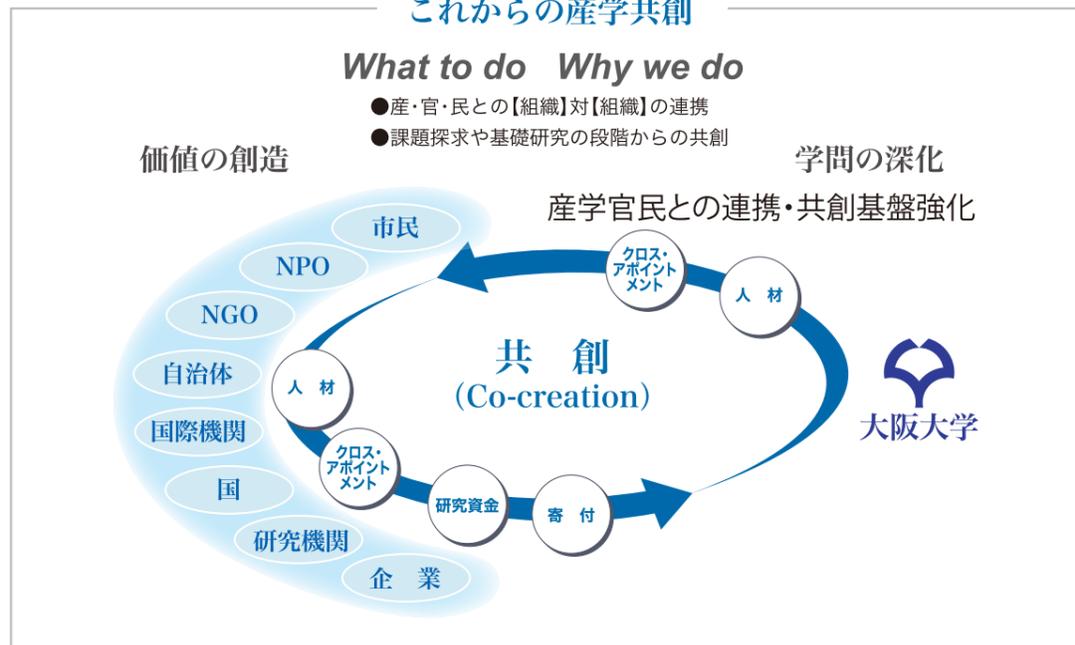
### 戦略的パートナー等との 国際共同研究推進

- 共通の社会課題を切り口に研究グループを  
形成し、先端研究を実施

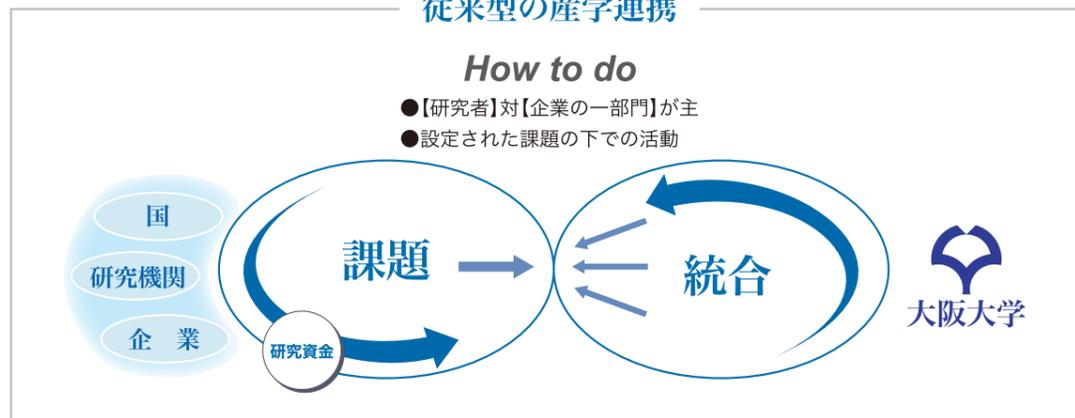
# Open Innovation

「産学連携から産学共創へ」をコンセプトに掲げ、  
 社会のニーズに基づく基礎研究の課題を発掘し、  
 新たな社会的価値の創出につながる  
 「Open Innovation」に挑戦します。

連携の深化と大規模化  
 これからの産学共創



従来型の産学連携

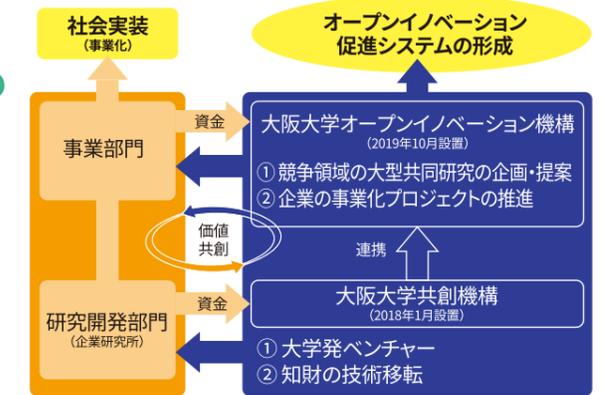


## これからの重点施策

研究開発エコシステムを活性化する  
 卓越した研究成果の円滑な社会実装と基礎研究へのフィードバック

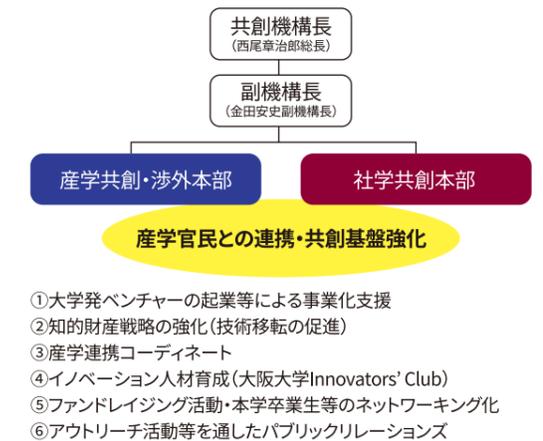
### オープンイノベーション(OI)機構の活動推進

- 大型共同研究費の推進
- 学内シーズの海外展開の推進
- OI機構で扱う共同研究の間接経費の増収 (10%、うち5%を研究者に還元)



### 共創機構の体制強化

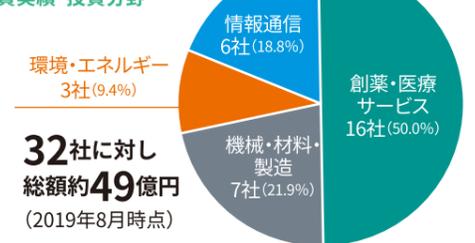
- 未来社会共創コンソーシアム (2020年4月稼働開始予定) (P22)
- 社会学共創本部の再編 (社会への情報発信+地域連携による社会課題解決)
- 経営企画オフィスとの連携による研究開発エコシステムの推進
- 知財戦略室の陣容整備等による知財収入の拡大
- 人材育成のための海外拠点の設立



### 大学発ベンチャーからのユニコーン創出

- 大阪府・大阪市との連携によるスタートアップ支援拠点の実現
- VBとVCの接点の場の構築

大阪大学ベンチャーキャピタル(株)の投資実績・投資分野



### 大学基金の拡大

- 未来基金の活動推進
- 国際部との連携による海外同窓会ネットワークを利用した寄附金の獲得

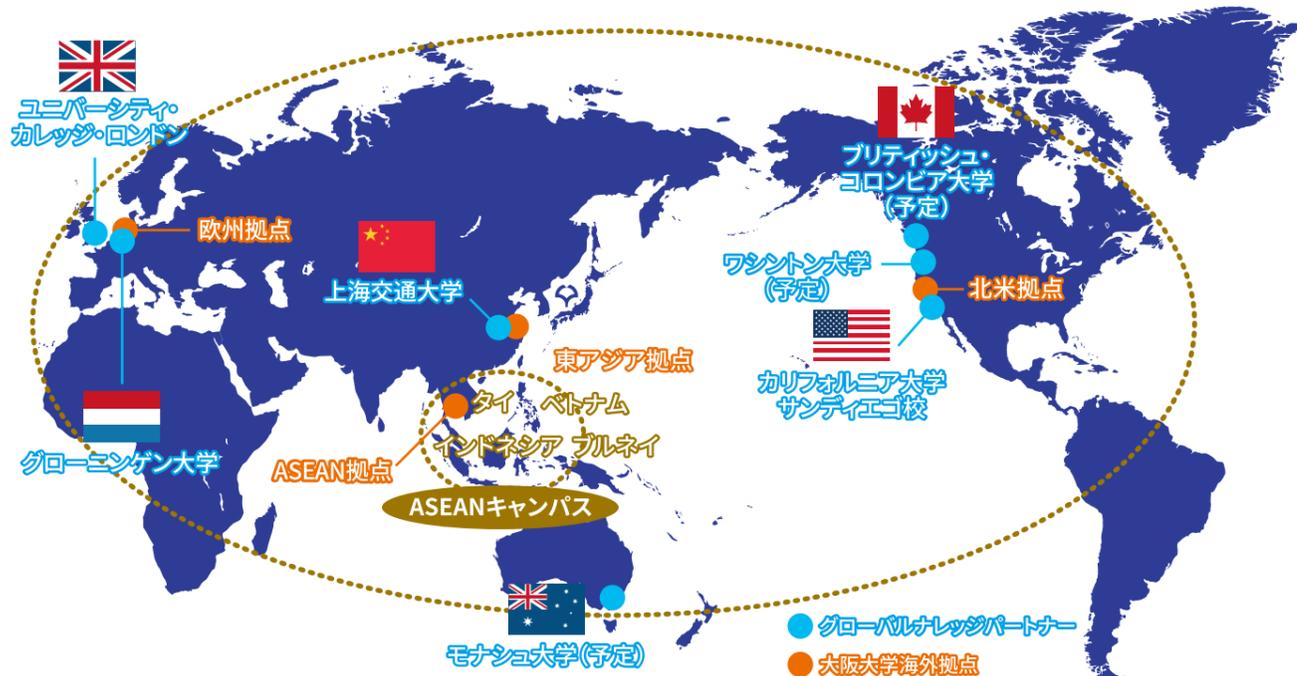


北米同窓会

# Open Community

「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、  
 学術、文化、芸術、医療の拠点として、  
 地域社会やグローバル社会が抱える諸課題の解決や  
 社会の心豊かな発展につながる貢献を目指し、  
 多様な知と人材が交差する「Open Community」を実現します。

## グローバルナレッジパートナー



## これからの重点施策

研究開発エコシステムを下支えする  
 世界トップレベルの基礎研究展開のための国際共創活動

### グローバルナレッジパートナー

- ビジョンを共有する世界の有力大学や本学が  
 拠点を置く地域の大学と、社会課題解決に  
 挑戦する知の協働を推進
- 共通の課題について分野横断で研究グループを  
 形成し、先端研究を実施
- 共同研究を通じた世界水準のグローバル人材  
 育成の推進



### 大阪大学ASEANキャンパス構想 (タイ・インドネシア・ベトナム・ブルネイ)

- 長年培ってきた教育・研究実績を基盤に  
 国際共同学位プログラム等を実施し、  
 イノベーションの創出に貢献する高度  
 グローバル人材の育成を推進
- 社会や文化に根差した形での課題解決を通じ、  
 同地域の3Q (Quality of Life/Nature/Technology)  
 を基本とした「質の高い成長」に貢献



### OUグローバルキャンパス・ グローバルビレッジ構想

- 日本語を含む世界の言語と言語に根差した  
 多様な文化・社会に関する教育研究拠点として、  
 箕面新キャンパスを2021年4月に開学予定
- 優秀な外国人留学生・研究者・教職員の獲得を  
 目的とした混住型のグローバルビレッジの整備

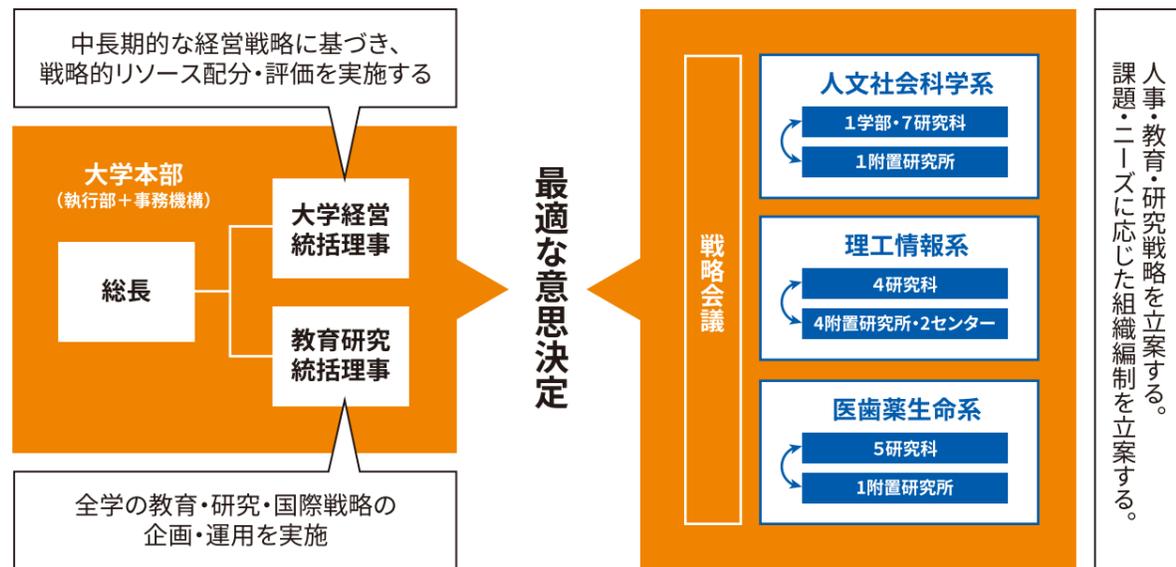


### Live Locally, Grow Globally (地域との連携)

- 詳細はP22で紹介しています

# Open Governance

たゆまぬ自己変革のもとで社会の負託に応えるために、  
構成員一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、  
安定的で健全な大学経営を行うとともに、  
リーダーシップと合意形成のバランスを重視した  
透明性のある「Open Governance」を実践します。



迅速な意思決定と全体最適な経営のためのガバナンス体制の構築

## これからの重点施策

研究開発エコシステムによる財務基盤の強化と  
優秀な人材育成・獲得に向けた人事・給与マネジメント改革の推進

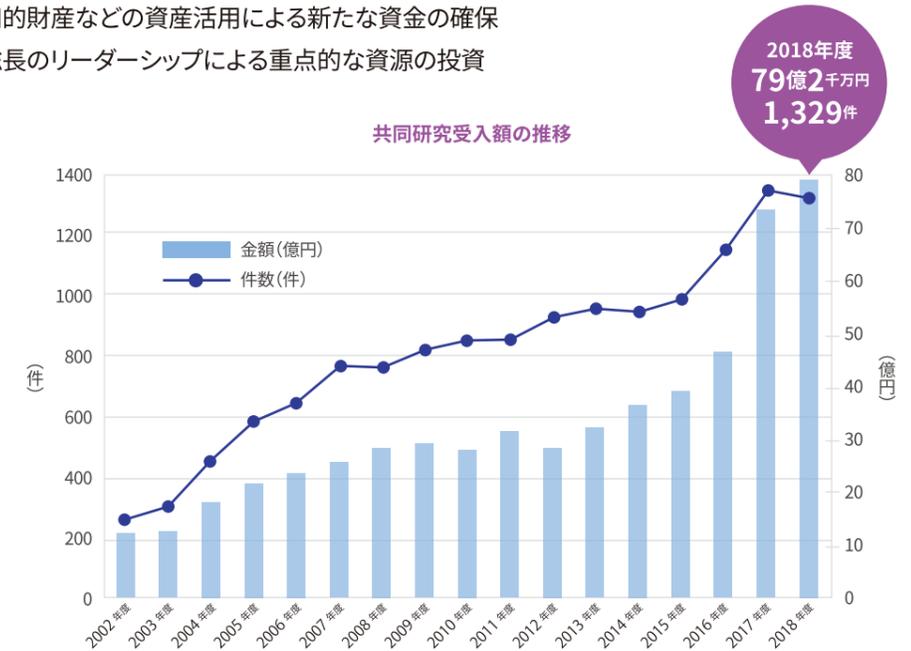
### 教職協働による研究開発エコシステムのための環境整備

- オープンイノベーション(OI)機構等における教職協働モデルの構築とIR機能の強化
- 事務系職員の企画力向上、新キャリアパス制度の推進(「総合職」「専門職」の分化等)



### 安定的かつ持続的な財務基盤の強化及び戦略的な資源配分

- 社会との共創などを通じた大型共同研究費をはじめとする外部資金の獲得
- 知的財産などの資産活用による新たな資金の確保
- 総長のリーダーシップによる重点的な資源の投資



### Diversity & Inclusion

- 詳細はP21で紹介しています

# Diversity & Inclusion

性別、性的指向・性自認、障がいの有無、国籍、民族、文化的背景、年齢、価値観等の違いを超えた、真に多様性を活かせるインクルーシブな風土作りを推進することにより、研究開発エコシステムの活性化を図ります。

## 実績

### 育休中キャリアアップ支援プログラム

○育児休業復帰後のキャリアへの好効果を期待するプログラム。2019年度に企業から9名受入れ



学内の一時預かり保育スペースを利用

### 女性研究者の循環型育成



3機関を循環しながらステップアップ

### 性的マイノリティの取組み

- 「PRIDE指標2019」最高評価「ゴールド」受賞 **大学で唯一**
- 「大阪市LGBTリーディングカンパニー認証制度」最高の三つ星認証
- 学生との共同企画によるSOGIセミナー開催



### 女性研究者活躍の基盤形成

○全国で唯一文部科学省の2つの事業に採択

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(牽引型)

中間評価 最高「S」評価

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(全国ネットワーク中核機関(群))

全国で唯一採択

## これからの重点施策

### ジェンダー・ダイバーシティの実現

- 産学共創教育の強化
- インクルーシブリーダーの育成
- 共同研究の推進
- STEAM分野のすそ野拡大
- 国際社会への発信強化



「第5回国際女性会議 WAW!/W20」

### LGBTQフレンドリーな社会の実現

- 「SOGI基本方針」に基づいた全学的取組み、学外との連携を強化

### 多様な構成員が無数の可能性を追求できる研究環境の推進

- 多様な障がいをかけがえない個性と考えることにより関係法令の理念等を踏まえ、構成員の無限の可能性を追求できる研究環境の整備



ダイバーシティ&インクルージョンの推進  
「イクボス×アライ宣言」(全国初)に向けた推進

## Live Locally, Grow Globally (地域との連携)

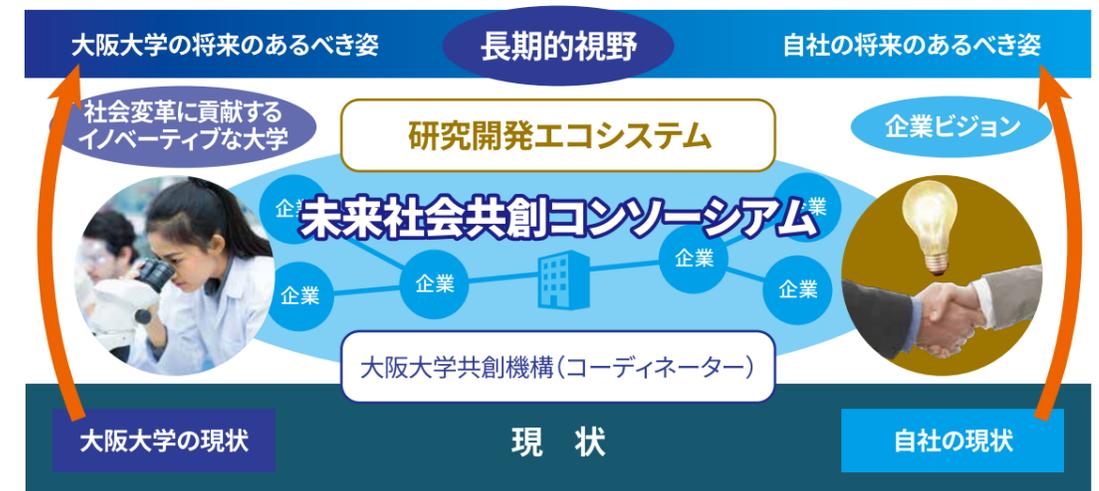
地域に生き世界に伸びる

研究開発エコシステムを通じて、社会が抱える諸問題の解決や社会の心豊かな発展につながる貢献を進めていきます。

## これからの重点施策

### 未来社会共創コンソーシアム

○複数の部局と複数の企業群の連携・協力による新たな社会的・学術的価値の創出と社会提供



### 臨床研究中核病院 (医学部附属病院)

- 関連病院1万床の情報ネットワークの実現
- 革新的治療方法の開発や新薬創出の加速による健康寿命延伸への貢献

「ビッグデータ解析」×「地域連携」  
持続的に革新的医療の開発・提供に貢献



### 中之島センター再開発事業と「中之島アゴラ構想」

- 中之島センター改修・機能強化による、文化、芸術、学術、技術の「4つの知」が交差する、産官学民連携の社会学共創、アート、産学共創の拠点形成

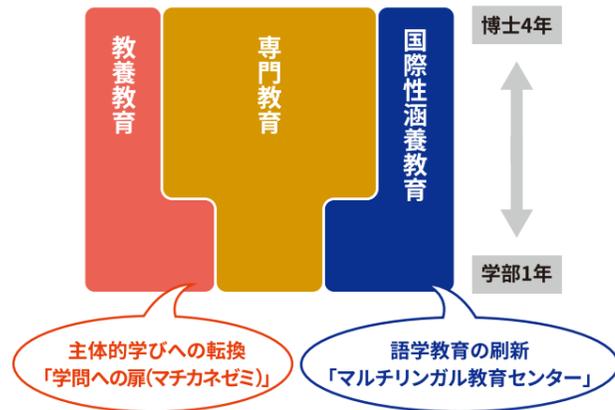


# OUビジョン2021 これまでの特筆すべき実績

## Open Education

### 高度教養教育体制の改革

- 学部～大学院まで一貫通の高度教養教育を実施(2019年度～)
- 知識を社会課題の解決に活用する力を育成



### 卓越大学院プログラムの採択

- 社会との共創による人材育成として卓越大学院プログラムを推進

#### 医歯薬生命系のプログラム

2018年度採択  
生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養

#### 理工情報系のプログラム

2019年度採択  
多彩な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム

### 高大接続の推進

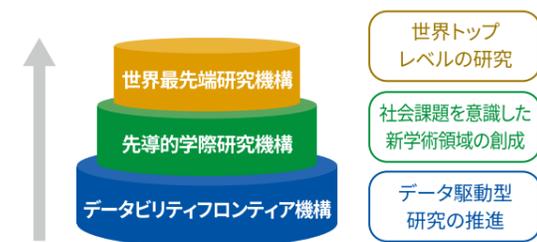
- SEEDSプログラム(高校生の好奇心を伸ばす)
- 阪大リジョ(理女)フェス



全国から600名近い学生・保護者が参加

## Open Research

### 世界トップ拠点形成に向けた体制整備



- 世界最先端研究機構(2017年1月)
- 先導的学際研究機構(2017年1月)
- データバリエーションフロントティア機構(2016年4月)

### Society 5.0実現に向けて全国唯一 ライフデザイン・イノベーション研究拠点形成



- 「Society 5.0実現化研究拠点支援事業」(文部科学省)(2018年10月)
- 未来をつくる10研究プロジェクトを推進
- 「豊かで安心して生活できる新しい社会の構築」を目指す

### SDGsを含め社会課題に向けた「いのち構想」

- 社会課題解決志向の研究を研究推進構想「いのち」として策定
- 海外有力大学や多様なステークホルダーとの対話をすすめ、社会課題解決に向けた研究を推進



## Open Innovation

### 共創機構の設置

- 2018年1月設置
- 企業、自治体、各種団体、地域社会、他大学、そして広く市民の皆さまなど多様な担い手との「共創」によって、新たな知の創出、人材育成、イノベーションを創出

### Nature Index 2017 Innovation

#### 世界大学ランキング31位

#### 国内1位

- 特許での研究論文の引用に関するデータを分析し、イノベーションに影響を及ぼす学術研究を提供する世界の学術機関のランキング
- 米国を代表するハーバード大学(全体33位)より、大阪大学のイノベーションの貢献度が高く評価

### 国際特許出願件数(2018年)

#### 世界ランキング 11位(教育機関のみ)

#### 国内1位

### 「組織」対「組織」の連携強化

#### 総額200億円規模の連携

- 「共創」による基礎研究段階からの組織連携

### 第1回日本オープンイノベーション大賞

#### 文部科学大臣賞受賞

- オープンイノベーションのロールモデルとなる先導的・独創的な取組みを表彰
- 大阪大学・中外製薬・大塚製薬・ダイキン工業における「組織」対「組織」の連携が、特に顕著な取組みと評価

## Open Community

### 広域行政を担う大阪府との包括連携協定締結

- 2017年12月締結
- 1府9市1町と締結済



### 大学の地域貢献度調査(日本経済新聞社)

総合1位(2017) 総合2位(2019) (隔年実施)  
(全国約750大学が参加・3分野で連続1位)

### 留学先としての高評価

- 「日本留学AWARDS」西日本地区国公立大学部門

#### 大賞(2018、2019) (2年連続)

### 同窓会との連携強化

- 海外同窓会との連携強化
- 国内も強化



## Open Governance

### ガバナンス強化

- 統括理事と戦略会議設置

成果  
教育改革の実施  
卓越大学院プログラムの採択

### 財務基盤強化

- 共同研究受入額 約80億円(2018)

#### 大型共同研究受入額

約50億円 国内1位(2017)

- ネーミングライツ制度導入
- 金融機関等との資産活用に関する協定締結
- クラウドファンディングの開始

### ダイバーシティ&インクルージョン

#### 女性教員増加数 2年連続1位

(2017、2018 国立大学協会調べ)

#### 女子学生数 1位(国立大学中)

(文部科学省「学校基本調査」)

# 用語集

## アライ

Ally=同盟、味方。LGBTを積極的に支援し、不平等の解消や権利擁護のために共に動いてくれる人。

## イクボス

職場で共に働くスタッフのワークライフバランスを考え、その人のキャリア、人生を応援しながら、自らも仕事と生活を楽しむことができる管理職。

## いのち構想

研究推進構想『いのち』にむきあう研究のために「社会的課題に取り組む大阪大学」の略語。「社会的課題解決志向研究」に関連し、本学において社会的課題の解決を目指した研究を推進していくために、大阪大学が策定した研究推進構想である。

## オープンイノベーション(OI)機構

企業と大学との「組織」対「組織」の本格的産学連携を実現するにあたって、競争領域を中心とした大型共同研究のマネジメントを可能にする体制や優れた研究者の研究領域等を横断する組織化の要素を備え、高度で機動的なマネジメントを実現する組織として整備されるもの。大阪大学は、2019年度にオープンイノベーション機構の整備支援対象大学として選定された。

## 指定国立大学法人

「研究力」「社会との連携」「国際協働」において、国内最高水準に達している国立大学法人のうち、国際的な競争環境の中で世界の有力大学と伍して、社会や経済の発展に貢献する取り組みを実行し、国立大学改革の推進役となる大学に対し文部科学大臣が指定するもの。大阪大学は2018年10月に指定を受けた。

## 社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

大阪大学の人文社会科学系部局が中心となって、理工系・医歯薬系など自然科学系の研究者と連携を図りながら、さらには、パブリックセクターや民間企業など、さまざまな社会のステークホルダーと協働しながら社会課題の発見と解決を進め、持続可能な共生社会を構想するシンクタンク。

## 戦略会議

2017年8月に、総長のリーダーシップのもとで、部局の垣根を超えた新たな意思疎通、連携協働の場として設置。教育研究分野の共通性を基準に、「人文社会科学系」、「医歯薬生命系」、「理工情報系」の3つに大括り化し、全体最適な経営のための戦略・取組みの策定を行う。

## 卓越大学院プログラム

新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成するプログラム。

## 統括理事

2017年8月に、総長のリーダーシップのもとで、迅速な意思決定を目的として設置。大阪大学では、「大学経営」と「教育研究」をそれぞれ担当する2名の統括理事を置き、機動的なマネジメント体制を構築している。

## 2つの「D」

大阪大学が変革の取組みのベースとするものであり、「Disruption(創造的革新)」、「Diversity(多様性)」を指す。組織や分野の壁を取り払い、その関係性を「Disruption」し、多様な価値観と文化的多様性を取り入れる「Diversity」環境を整備すべく大学改革を断行し、社会課題の解決に向けたイノベーションの創出を狙う。

## 未来社会共創コンソーシアム(仮称)

大阪大学と産業界の共創を通して将来の新たな社会的・学術的価値と新たなビジネスの社会への提供を可能にする連合組織体。2020年4月に始動予定。

## ユニコーン

評価額10億ドル以上の非上場、設立10年以内のベンチャー企業の通称。起業してから年数が浅いにも関わらず多額の評価額を得ている企業を指す。

## Double-Wing Academic Architecture(仮称)

専門分野を深める教育を深化させていく「知の探究」に加え、学際融合の推進を通じて新たな知的領域を

開拓する「知と知の融合」と社会課題の解決を目指した活動を教育に取り込みさらに研究シーズを生み出す「社会と知の統合」の双翼を持った教育体制である。

## ELSI

Ethical, Legal and Social Issuesの略称。倫理的・法的・社会的課題のこと。新しいイノベーションシーズを社会実装する際には、様々な制約やレギュレーションの壁に突き当たることが予想されており、特にAIに代表される新規技術に関し、早期に抽出し、的確に対応することが求められている。

## IR

Institutional Researchの略称。大学におけるIRとは、大学の経営改善や学生支援、教育の質向上、研究推進等のため、学内データを収集・分析し、改善施策を立案、施策の実行・検証を行うといった活動を指す。

## SDGs(持続可能な開発目標)

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、大阪大学も積極的に取り組んでいる。

## Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を指す。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱される。

## STEAM教育

Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsを中心とした5つの領域での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育。

## University 4.0

大阪大学の考える大学の姿の次世代モデル。大学のシステムの変革を辿ると、古典の研究と教育から始まり専門職の養成機関へと変遷を遂げた中世から近世の大学モデルがUniversity 1.0、研究の重視とともに研究と教育を一体化させたドイツモデルがUniversity 2.0、大学院制度を設け、さらに社会貢献という使命を提唱したアメリカモデルがUniversity 3.0とするならば、今日の大学はUniversity 3.0の直中にある。大阪大学は、University 4.0として、共創の場としてイノベーションを牽引する「社会の中の大学、社会のための大学」モデルを示し、社会と知の融合を目指す。

## URA

University Research Administratorの略称。大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。

## VB、VC

Venture Business(ベンチャー企業)、Venture Capital(ベンチャーキャピタル)の略称。